

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年11月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103189		
法人名	社会福祉法人広島常光福祉会		
事業所名	グループホームげんき福田		
所在地	広島県広島市東区福田5丁目1168番地1 ☎(082)899-7588		
自己評価作成日	令和3年6月23日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103189-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年10月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者1人1人の能力を全職員が把握、情報共有し日々の支援を行っています。利用者職員が家事全般において共同し一緒に施設を運営することを目標としています。利用者家族とも同様に度々連絡し情報共有しています。新型コロナウイルス感染拡大の防止に取り組みながら、町内会に加入し町内清掃に参加、他部署との交流事業等と充実した生活を送れるように工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所に隣接した病院が協力医となっており、薬局も隣接しているため医師はもとより薬剤師、訪問看護と包括的な医療提供体制を構築している。法人内でも「良いねカード」という制度がある。職員相互に業務の中で良かった点、助かった点をカードに書き提出するというもので、職員ごとに良い所を探し合うことにつながり、モチベーションアップにもつながっている。利用者へ認知症予防のため、「書くこと」を大事にしており、計算や漢字問題だけでなく手紙を書くことにも取り組んでおり、家族との関係継続にも繋げている。地域住民とも事業所全体での顔見知りの関係が構築しており、散歩などの外出時には声を掛けて、話に花が咲くこともある。地域の行事でも準備の段階から参加し、「いつも助かっている」と声を頂いている。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を掲げ、目につく場所に掲示し、毎朝朝礼で唱和し意識出来るようにしている。その理念をより細かくした目標を毎月掲げ実践している。結果は毎月の職員会議にて実践出来た点、反省点等挙げて次に活かしている。	事業所の年間目標「皆で情報を共有する」をもとに職員個々でも年間目標を掲げ、日々のケア向上につなげている。キャッチフレーズや月間目標もあり、策定の際は職員に聞き取りを行うことでより日々のケアに活かせる工夫を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、役員、町内清掃や各種行事の準備から参加し交流を深めている。開催出来る時は運営推進会議に地域の方をお招きし情報交換を行っている。	出勤時や利用者との散歩時に挨拶を交わすことで事業所全体で地域住民と顔見知りの関係を構築している。コロナ禍のため中止となっているが、地域行事の秋祭りの際は子供神輿の休憩所となっており、利用者も世代間交流を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「認知症アドバイザー養成講座受講者」が1名おり、認知症全般において支援方法等を地域に活かせるように備えている。随時施設見学を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者とその家族、地域包括支援センター職員、町内会の方、職員が出席し、2ヶ月に一度開催していたがコロナ禍では開催を控えていた。R3年4月は開催し、地域の方の意見を受け、サービスに活かしている。	会議には町内会長だけでなく地域の方の第三者委員も出席いただいている。会議の中で事故に対する改善案を地域の方からいただいたこともあり、事故予防につなげた事例もある。コロナ禍では書面会議に変更し意見の収集と関係継続に努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町、区役所担当者との連絡は電話やFAX等で行い、何かあった際には、報告、連絡、相談している。生活保護者対応事業所の為、各区の生活保護担当者と連絡し合うこともある。	管理者が事業所窓口となり市や区役所との連絡を日々取ることで深い関係を築いている。介護保険改正時には同法人のグループホームとも連携し、保険者とやり取りを行っている。また、各区の更生課と連携し生活保護受給者の支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束会議を2ヵ月に一度行っています。常に職員の中に意識と知識を持つようにしている。	月一回の職員会議内で勉強会を実施しており、動画をもとに実際にあった事例を示すことでよりイメージしやすく日々のケアを振り返る工夫を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に1回の勉強会とは別に、身体拘束会議の中でも話をしている。虐待がなされる背景まで掘り下げて取り上げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の実施や資料が有ればだれでも見る事が出来るようにしている。入居者に後見人が必要かどうか、関係者で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者と家族に契約内容等の説明をさせていただいた後、了承を得てサインと捺印頂き、契約を交わしている。家族等からの疑問等の問い合わせは、電話等でも対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	サービス担当者会議や面会時 運営推進会議と直接意見を頂ける機会を設けている。またご意見箱の設置や苦情相談窓口のご案内も行っている。	緊急事態宣言下ではオンラインでの面会对応を行っていたが現在は緩和され、玄関での面会を行っている。定期的に電話連絡を行い、ご家族の意向を確認している。実際に得意な家事動作をケアプランに反映した事例もある。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回の職員会議、フロアー会議、係り別会議を実施。意見交換の場を設けている。	毎月、事業所全体での職員会議を実施しており情報共有や介護用品の購入を導入した実績もある。法人全体の取り組みで「良いねカード」というものがあり、業務内での職員の良い所を自由に書き、提出することでモチベーションアップにつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員の勤務状態を把握。年に二回の人事考課を実施。管理者は個別での面談を行い各自の意見を聴く事が出来ている。託児を利用する職員の意見から改善を求め、改善された実績も有る。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修には積極的参加を促している。各職員の性格等も考慮しながら研修に推薦している。資格取得には法人からの補助も有り職員全体のスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修や勉強会 行事を通じ、交流の機会を設けて意見交換や意識とサービスの向上を目指している。研修に参加することで、他事業所の方と交流出来ることもある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	情報をまとめサービス開始までに職員全員で周知徹底し、受入れの体制を整えている。声掛けや見守りから想いをくみ取り職員間で情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接や入所時には必ず意見や希望を伺っている。またいつでも相談を受けられる体制にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	常に新しい情報を得るような体制にしている。必要時には他のサービスや他のグループホームを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事を出来るように援助していく事を常とし、家庭的な雰囲気の中自立を促していけるような声掛けを行っている。畑作りや食事作り等、入居者の得意なことは活かしてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	情報の共有を行うことで 家族と共に支え合う関係の構築に努めている。家族に入居者の状態報告を行いながら、必要な病院受診や必要物品の購入等してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の了承があれば面会は自由に行っており、コロナ禍ではオンライン面会も活用している。コロナ以前は外出も家族様同伴の元 自由にしてもらい、外出がしやすいよう準備の支援を行っていた。外部からの電話や手紙も受けられる事が出来ている。	コロナ禍の中でもオンラインでの面会を実施し、関係継続に寄与している。遠方のご家族へ本人と絵手紙を作成し郵送したこともある。以前は趣味仲間やご友人、ご兄弟などの面会もあり、外食や墓参りに外出していた。外出時もよそ行き着などの準備など支援している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日楽しく生活して頂けるように集団レクへの参加、個別レクの実施、各ユニットごとの交流時間を設けている。入居者同士の会話もフォローしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	法人内の施設等に転居されても、出会った時には入居者と家族には声を掛けさせて頂いている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時のアセスメント時には本人、家族にしっかり聞き取りを行っている。日々接している中で希望等を聴いたら即対応出来るようにしている。	日々のケアで得た情報などは伝達ノートを活用し共有を行っている。実際に思いを聞く中で家族に手紙を出したいと言われる方にケアプランに反映し支援した実績もある。また、失語症などで表出が困難な方へも、自己決定できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所までの面接時等に本人、家族に必ず聞き取りを行っている。病院、ケアマネ等から情報をもらっている。馴染みのある本人の持ち物を居室で使用出来るように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	支援する前に記録と申し送りで、直近の様子を確認している。細かな様子まで記録に残し、日々の状態で出来る事、出来ない事を職員間で情報共有しながらケアにあたっている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族、主治医、職員間で意見を出し合い介護計画に反映させている。家族との面会時に意見交換を行っている。プランを実施する中でも、職員間で話し合いながら対応している。</p>	<p>各利用者に担当職員が付き、モニタリング時、実際の生活をケアプランに反映できるようにしている。家事分担や手紙の郵送など実際に反映した事例もある。カンファレンスも事業所内と家族参加時と二度あり、より利用者のことを深く話し合えるよう工夫している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入居者の一日の様子が分かりやすいように項目別に、色分けにて記録に残している。うまくいった事、入居者の反応なども記録したり申し送りしたりし、プランに反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>介護計画で計画したとしても、本人、家族より希望あれば即変更している。家族では対応が難しい場合などには、職員が代わりに買い物するなどしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会に加入し、地域との繋がりを大切にしている。町内会行事には積極的に参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医がグループホームから近く、週2回の往診や定期受診を行い、急変時にはすぐに対応してもらっている。入居者の体調の相談を密に行っている。主治医以外の受診希望者には家族の協力も得られるように事前に説明している。</p>	<p>利用開始時にご家族、利用者に説明を行い主治医の選定を行っている。協力医は徒歩圏内にあり、週2回の往診や24時間のオンコール態勢で急変時にも対応している。また、薬局も近く薬剤師との連携のもと、薬剤の一包化や減薬など適切な薬剤管理を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関の看護師と訪問看護の契約を行っている。急変時にはすぐに受診出来る体制を取っている。協力医が近くにいるのも本人、家族の安心感につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はすぐに医療機関への情報提供を行っている。経過状況を確認する為に病院相談員との連絡を密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所前の面接時と契約時には重度化した場合には対応出来ない場合もあると説明し、本人、家族が納得されてからの入所としている。協力医療機関と医療連携体制契約を結んでいる。	看取りを実施しておらず、重度化の際は協力病院への入院や同法人特養へ入所という流れとなっている。その際は事業所の入浴設備で入浴が可能かどうかを判断材料としている。利用開始時はもちろん、継続的に方針の説明を行い、状態の報告を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年間計画で勉強会内容に必ず入れ、職員全員で情報共有している。事故等あった後にはその経験を活かせるように職員全員で見直し、検討を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回は訓練を行うように計画を立てて実施し、その内1回は夜間を想定している。訓練には家族、地域の方、消防職員にも声をかけ合同訓練を行えるように計画している。職員は法人内の施設へも訓練参加している。	年二回火災だけでなく土砂想定訓練も実施している。裏の溝の水位が上がると災害が起こりやすいという過去の経験をもとに早めに避難行動に移るなど防災意識を高く持っている。備蓄は二日分食料と水分を用意しており、日頃から食事などに活用し保存期間に注意している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	必ずプライバシー保護や虐待の勉強会を計画し職員全員で行っている。	法人を上げて接遇委員会や勉強会などを実施し、資質向上に取り組んでいる。日頃から職員同士で話し合い、声を掛け合うことで適切な言葉掛けや言葉選びにつなげている。入浴の際も同性介助を基本とし、排泄時にも他者に聞こえずに情報共有できるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者が何でも言える環境づくりを行っている。自己決定が出来るよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間、臥床時間、起床時間など一人ひとりのペースに合わせ支援している。活動も個人に合うものを提示し、希望に沿って実施出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日本人が着たい服を選んで着てもらえるよう支援している。衣替えは家族に協力して頂き行っている。本人の希望を聞き月1回出張理美容を利用している。化粧をする方は家族に必要な物品を依頼している。職員による美容レクも行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作りやおやつ作り、おかずの盛り付け、配膳、食器洗い、食器拭きなど一人ひとりの能力を活かし職員と一緒に楽しめるようにしている。必要な方にはトロミや刻みの対応、低脂肪やカロリーオフ等の飲み物の使用も行っている。	一日のうち二食、業者を利用し夕食時の一品を手作りすることで調理という役割を利用者個々が持っている。月一回の特別食時にはアンケートを取り、焼肉やピザなどを提供している。地域の方から頂いた野菜などを活用し、季節感を醸し出し食事を楽しむ工夫を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各入居者が1日に摂った食事量、水分量を毎食時記録に残している。一人ひとりの嚥下、咀嚼状態に合わせ食事形態を変えて支援している。水分補給の回数を多くし、水分量の確保に努めている。主食の他、野菜を中心とした副菜、汁物等、バランスの良いメニューを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事前はイソジンでうがいしてもらい、感染予防や口腔内の清潔保持に努めている。毎食後歯磨きとお茶うがいの声掛けや介助を行っている。夜間は義歯を外し、洗浄剤に浸けている。希望者は訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用い、入居者の排泄パターンを把握し、時間が空く時や食事前など声掛けしトイレに誘導している。失敗する方には職員間で話し合いながら声掛けの間隔を短くする等、対応を変えている。	リハビリパンツから布パンツへの改善事例もあり、排泄チェック表を活用した自立支援への取り組みを日々行っている。夜間も個々のパターンに合わせた声掛けを行いトイレへ誘導している。トイレ内の手すりは身体状態に合わせた誘導が可能となるよう、左右両方に設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日体操の中で排便体操を取り入れたり廊下歩行を行ったりと、運動する時間を作っている。食事面では乳製品や寒天ゼリーを朝食時に提供すると同時にこまめに水分摂取を促し、スムーズに排便が出来るよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望や体調に合わせて入浴を行っている。出来る事は行って頂き本人のペースで入浴している。浴槽に入浴剤を入れて、香りも楽しめるようにしている。	入浴は週二回を基本とし、希望により週三回も可能である。拒否のある方も無理はせず、様々なパターンでお誘いし、伝達ノートで共有している。持ち込みでのソープ類の対応も可能で、ゆず湯や生姜湯などお風呂時間を楽しんでもらえるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>一人ひとりの生活習慣を把握し その人が安心して眠れるよう支 援している。また午後からも居 室で休息して頂けるよう支援 している。自由に思いのまま過 ごしてもらえよう対応している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>入居者の体調変化を医師に報 告し、薬について指示を受けて いる。定期的に薬剤師より薬 剤指導を受け、用法、用量等 確認しながら薬管理や服薬確 認を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。</p>	<p>入所時に家族に生活歴、趣味 などを聞き施設で楽しく過ご せるよう支援している。毎月 1回自分でおやつを選んで購 入出来るようにしている。誕 生日者がいる月は誕生日会を 実施しケーキやゲームを用意 して誕生日者を主役にし、お 祝いしている。食事作りやお やつ作りに参加してもらって いる。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。</p>	<p>新型コロナ感染拡大防止によ り現在は家族との外出等は控 えてもらっているが、可能な 時期にはドライブ等実施して いる。本人の希望を聞きなが ら敷地内の散歩や畑の作業等 でなるべく外に出る機会を作 っている。</p>	<p>現在、遠方への外出は難しい 状況ではあるが隣接する畑や 特養内にある売店への買い物 など日常的に外出する機会を 設けている。事業所内廊下で 日光浴や外気浴ができ、利 用者の希望に応じて柔軟に 対応している。コロナ以前は 近隣公園での花見や紅葉狩り に出かけていた。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこ との大切さを理解しており、 一人ひとりの希望や力に応じ て、お金を所持したり使える ように支援している。</p>	<p>家族の承諾の元、本人の希望 に応じている。またほしい物 があれば職員と一緒にお店に 行き購入している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の要望があれば電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有空間はゆっくりくつろげる空間としてソファを配置し、常に人を近くで感じてもらえるようになっている。リビングに季節に応じた飾りや壁画を入居者と一緒で作って飾り、個人の作品も飾っている。光の差し込みに応じカーテンを閉めたり、外の景色が見えるように工夫しながら対応している。</p>	<p>共有空間の窓を大きくとっており、山々の季節の移ろいを感じられるようにしている。居室前の廊下をリハビリ体操や歩行訓練に利用し、機能訓練にも力を入れている。個人の書道や塗り絵を飾り、個々の活動を披露できる場を用意している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングにソファや椅子を置き入居者同士が話ができるよう工夫している。1人がけのソファもあり、1人になれる空間としても活用出来ている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の使い慣れた家具などを持ってきて頂き本人が居心地よく過ごせるよう家族と相談している。好きな置物や写真、自分の作品、花等も置き、楽しむことが出来ている。</p>	<p>備え付け備品はエアコン、ベット、カーテンがあり、居室に洗面所が設置してあることで毎朝洗顔をして他者に会うという当たり前の生活が送られている。危険物でない限り制限は設けておらず、使い慣れた机を持ち込み、書き物をする方やプランターで花を育てる方などもいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室や共有場所に表札を付けて場所等を分かりやすくしている。入居者に転倒やケガ、歩行の妨げにならないよう危険な物は置かないよう配慮している。</p>		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を掲げ、目につく場所に掲示し、毎朝朝礼で唱和し意識出来るようにしている。その理念をより細かくした目標を毎月掲げ実践している。結果は毎月の職員会議にて実践出来た点、反省点等挙げて次に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、役員、町内清掃や各種行事の準備から参加し交流を深めている。開催出来る時は運営推進会議に地域の方をお招きし情報交換を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「認知症アドバイザー養成講座受講者」が1名おり、認知症全般において支援方法等を地域に活かせるように備えている。随時施設見学を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者とその家族、地域包括支援センター職員、町内会の方、職員が出席し、2ヶ月に一度開催していたがコロナ禍では開催を控えていた。R3年4月は開催し、地域の方の意見を受け、サービスに活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町、区役所担当者との連絡は電話やFAX等で行い、何かあった際には、報告、連絡、相談している。生活保護者対応事業所の為、各区の生活保護担当者と連絡し合うこともある。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束会議を2ヵ月に一度行っています。常に職員の中に意識と知識を持てるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に1回の勉強会とは別に、身体拘束会議の中でも話をしている。虐待がなされる背景まで掘り下げて取り上げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の実施や資料が有ればだれでも見る事が出来るようにしている。入居者に後見人が必要かどうか、関係者で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者と家族に契約内容等の説明をさせていただいた後、了承を得てサインと捺印頂き、契約を交わしている。家族等からの疑問等の問い合わせは、電話等でも対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	サービス担当者会議や面会時 運営推進会議と直接意見を頂ける機会を設けている。またご意見箱の設置や苦情相談窓口のご案内も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一回の職員会議、フロアー会議、係り別会議を実施。意見交換の場を設けている</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>各職員の勤務状態を把握。年に二回の人事考課を実施。管理者は個別での面談を行い各自の意見を聴く事が出来ている。託児を利用する職員の意見から改善を求め 改善された実績も有る。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内外の研修には積極的参加を促している。各職員の性格等も考慮しながら研修に推薦している。資格取得には法人からの補助も有り職員全体のスキルアップを目指している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>研修や勉強会 行事を通じ、交流の機会を設けて意見交換や意識とサービスの向上を目指している。研修に参加することで、他事業所の方と交流出来ることもある。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>情報をまとめサービス開始までに職員全員で周知徹底し、受入れの体制を整えている。声掛けや見守りから想いをくみ取り職員間で情報の共有に努めている。</p>		

自己 評価	外部 評価	項 目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接や入所時には 必ず意見や希望を伺っている。またいつでも相談を受けられる体制にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	常に新しい情報を得るような体制にしている。必要時には他のサービスや他のグループホームを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事を出来るように援助していく事を常とし、家庭的な雰囲気の中 自立を促していけるような声掛けを行っている。畑作りや食事作り等、入居者の得意なことは活かしてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	情報の共有を行うことで 家族と共に支え合う関係の構築に努めている。家族に入居者の状態報告を行いながら、必要な病院受診や必要物品の購入等してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の了承が有れば面会は自由に行っており、コロナ禍ではオンライン面会も活用している。コロナ以前は外出も家族様同伴の元 自由にしてもらい、外出がしやすいよう準備の支援を行っていた。外部からの電話や手紙も受ける事が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日楽しく生活して頂けるように集団レクへの参加、個別レクの実施、各ユニットごとの交流時間を設けている。入居者同士の会話もフォローしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	法人内の施設等に転居されても、出会った時には入居者と家族には声を掛けさせて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時のアセスメント時には本人、家族にしっかり聞き取りを行っている。日々接している中で希望等を聴いたら即対応出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所までの面接時等に本人、家族に必ず聞き取りを行っている。病院、ケアマネ等から情報をもらっている。馴染のある本人の持ち物を居室で使用出来るように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	支援する前に記録と申し送りで、直近の様子を確認している。細かな様子まで記録に残し、日々の状態で出来る事、出来ない事を職員間で情報共有しながらケアにあたっている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、主治医、職員間で意見を出し合い介護計画に反映させている。家族との面会時に意見交換を行っている。プランを実施する中でも、職員間で話し合いながら対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の一日の様子が分かりやすいように項目別に、色分けにて記録に残している。うまくいった事、入居者の反応なども記録したり申し送りしたりし、プランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	介護計画で計画したとしても、本人、家族より希望あれば即変更している。家族では対応が難しい場合などには、職員が代わりに買い物するなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に加入し、地域との繋がりを大切にしている。町内会行事には積極的に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医がグループホームから近く、週2回の往診や定期受診を行い、急変時にはすぐに対応してもらっている。入居者の体調の相談を密に行っている。主治医以外の受診希望者には家族の協力も得られるように事前に説明している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関の看護師と訪問看護の契約を行っている。急変時にはすぐに受診出来る体制を取っている。協力医が近くにいるのも本人、家族の安心感につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はすぐに医療機関への情報提供を行っている。経過状況を確認する為に病院相談員との連絡を密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所前の面接時と契約時には重度化した場合には対応出来ない場合があると説明し、本人、家族が納得されてからの入所としている。協力医療機関と医療連携体制契約を結んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年間計画で勉強会内容に必ず入れ、職員全員で情報共有している。事故等あった後にはその経験を活かせるように職員全員で見直し、検討を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回は訓練を行うように計画を立てて実施し、その内1回は夜間を想定している。訓練には家族、地域の方、消防職員にも声をかけ合同訓練を行えるように計画している。職員は法人内の施設へも訓練参加している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	必ずプライバシー保護や虐待の勉強会を計画し職員全員で行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者が何でも言える環境づくりを行っている。自己決定ができるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間、臥床時間、起床時間など一人ひとりのペースに合わせて支援している。活動も個人に合うものを提示し、希望に沿って実施出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日本人が着たい服を選んで着てもらえるよう支援している。衣替えは家族に協力して頂き行っている。本人の希望を聞き月1回出張理美容を利用している。化粧をする方は家族に必要な物品を依頼している。職員による美容レクも行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作りやおやつ作り、おかずの盛り付け、配膳、食器洗い、食器拭きなど一人ひとりの能力を活かし職員と一緒に楽しめるようにしている。必要な方にはトロミや刻みの対応、低脂肪やカロリーオフ等の飲み物の使用も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>各入居者が1日に摂った食事量、水分量を毎食時記録に残している。一人ひとりの嚥下、咀嚼状態に合わせ食事形態を変えて支援している。水分補給の回数を多くし、水分量の確保に努めている。主食の他、野菜を中心とした副菜、汁物等、バランスの良いメニューを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食事前はイソジンでうがいしてもらい、感染予防や口腔内の清潔保持に努めている。毎食後歯磨きとお茶うがいの声掛けや介助を行っている。夜間は義歯を外し、洗浄剤に浸けている。希望者は訪問歯科を利用している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を用い、入居者の排泄パターンを把握し、時間が空く時や食事前など声掛けしトイレに誘導している。失敗する方には職員間で話し合いながら声掛けの間隔を短くする等、対応を変えている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日体操の中で排便体操を取り入れたり廊下歩行を行ったりと、運動する時間を作っている。食事面では乳製品や寒天ゼリーを朝食時に提供すると同時にこまめに水分摂取を促し、スムーズに排便が出来るよう工夫している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>本人の希望や体調に合わせて入浴を行っている。出来る事は行って頂き本人のペースで入浴している。浴槽に入浴剤を入れて、香りも楽しめるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人ひとりの生活習慣を把握し その人が安心して眠れるよう支 援している。また午後からも居 室で休息して頂けるよう支 援している。自由に思いのまま 過ごしてもらえるよう対応し ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	入居者の体調変化を医師に報 告し、薬について指示を受けて いる。定期的に薬剤師より薬 剤指導を受け、用法、用量等 確認しながら薬管理や服薬確 認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。	入所時に家族に生活歴、趣味 などを聞き施設で楽しく過ご せるよう支援している。毎月 1回自分でおやつを選んで 購入出来るようにしている。 誕生日者がいる月は誕生日 会を実施しケーキやゲーム を用意して誕生日者を主役 にし、お祝いしている。食 事作りやおやつ作りに参加 してもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力し ながら出かけられるように 支援している。	新型コロナ感染拡大防止によ り現在は家族との外出等は 控えてもらっているが、可 能な時期にはドライブ等実 施している。本人の希望を 聞きながら敷地内の散歩 や畑の作業等でなるべく 外に出る機会を作っている。		
50		○お金の所持や使うことの 支援 職員は、本人がお金を持つ ことの大切さを理解して おり、一人ひとりの希望 や力に応じて、お金を 所持したり使えるよう に支援している。	家族の承諾の元、本人の 希望に応じている。また ほしい物があれば職員 と一緒にお店に行き購 入している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の要望があれば電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間はゆっくりくつろげる空間としてソファを配置し、常に人を近くで感じてもらえるようになっている。リビングに季節に応じた飾りや壁画を入居者と一緒で作って飾り、個人の作品も飾っている。光の差し込みに応じカーテンを閉めたり、外の景色が見えるように工夫しながら対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファや椅子を置き入居者同士が話ができるよう工夫している。1人がけのソファもあり、1人になれる空間としても活用出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた家具などを持ってきて頂き本人が居心地よく過ごせるよう家族と相談している。好きな置物や写真、自分の作品、花等も置き、楽しむことが出来ている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室や共有場所に表札を付けて場所等を分かりやすくしている。入居者に転倒やケガ、歩行の妨げにならないよう危険な物は置かないよう配慮している。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームげんき福田

作成日 令和3年12月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	68	利用者様の担当職員が誰か家族様に発信できていない	家族様に担当職員の事を知ってもらい安心してもらう	家族カンファレンス時に担当職員が利用者様の近況を報告する	1年
2	60	利用者様を戸外への行きたい所に連れて行く	コロナの状況を見ながら出来るだけ利用者様と外出できるようにする	・ボランティア活動の参加 ・畑や園芸仕事の手伝い ・隣接する特養内にある売店に買い物	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。